

全国地域作業療法研究大会 第23回学術集会

学会テーマ：「健康づくり、地域づくり、そして就労へ」

会 場：北九州市国際会議場（北九州市小倉北区浅野 3-9-30）

日 時：平成30年2月24日（土）・25日（日）

参加費：¥5,000（非会員¥7,000. 他職種¥2,000. 学生¥1,000. 25日の公開シンポジウムは無料）

大会長あいさつ

広島都市学園大学 教授
株式会社フロー・ライフ取締役 近藤 敏



「全国地域作業療法研究会」は、平成7年に作業療法の全国学会が熊本市で開催された折、初代会長の古川昭仁氏が発起人となってスタート致しました。学術研鑽の場として学術大会を毎年開催し、医師や保健師、行政をはじめ多くの方々からのご指摘や期待を受け止めながら、訪問・通所における作業療法の実践報告や研究を行ってきました。また、各種研修会を企画し、人々の暮らす地域、すなわちクライアントのホームグラウンドで作業療法の技を発揮できる作業療法士の育成に力を注いできました。研究会が発足し既に20年を経過し、これからは、地域がどのような課題を抱えているのか、地域の課題に気づきその解決に向け、多職種と連携し、作業療法士がこれまで蓄積した技術を発揮すべき段階にあると考えます。これを踏まえ本学会では、健康づくりや地域づくりに加えて就労支援と継続をテーマに掲げました。就労はICF（国際生活機能分類）の活動と参加の目標を満たすことができる究極の作業と言えます。障害や年齢に関係なく、社会と繋がることを望む人は数多くいます。近年、安倍首相の国民総活躍のスローガンや就労支援を推進しようとする国の施策もあって、この分野におけるかつてない作業療法士の実践も見られるようになってきました。今回の学術大会では、ヘルスプロモーションやADL/IADLの自立支援、そして就労支援と継続に向け、実績を残して来られた作業療法士を中心に活発な意見交換が期待されます。

開催地の北九州市は、公害や高齢化など日本が直面する課題に他都市に先駆けて取り組み、これまで格段の成果を挙げてきました。平成23年12月には、国から国家プロジェクトの一つ「環境未来都市」として選定されています。平成27年には、日本の産業革命の象徴として知られる官営八幡製鐵所関連施設が世界文化遺産として登録されました。是非とも、北九州市小倉での本学会に多数ご参加下さい。

プログラム

1日目 2月24日(土)

13:00～13:20 開会式、大会長挨拶、日本地域作業療法研究会会長挨拶

13:20～14:20 「講演1」

講師：宮永敬市 氏（北九州市保健福祉局地域福祉部認知症支援・介護予防センター所長）

テーマ：北九州市から発信する地域づくりの取り組み
～認知症予防・介護予防の視点から



14:30～15:30 「吉田隆幸記念講演」

講師：茂木有希子 氏（株式会社ハート&アート 代表取締役）

テーマ：地域は家族の拡大図～「地域包括ケアシステム」理念から実践へ！



15:40～17:10 「一般演題1」

2日目 2月25日(日)

9:30～10:30 「講演2」

講師：仲地宗幸 氏（株式会社NSP キングコング）

テーマ：作業療法士による就労支援と継続へのチャレンジ



10:40～11:10 「一般演題2」

11:20～12:00 「講演3」

講師：中村義雄 氏（北九州市議会議員）

テーマ：地域は何を求めているのか～地域課題の解決に
取り組もう



13:00～15:00 「公開シンポジウム：健康づくり、地域づくり、そして就労へ」

橋元 隆 氏（九州栄養福祉大学 学長補佐）

福田久徳 氏（株式会社きゅうすけ 代表取締役）

中村儀成 氏（NPO 法人列島会 創造館クリエイティブハウス 理事長）

